

1	公開授業実施日時	2017年7月12日（水）8:40～9:30
2	場所	京都教育大学附属桃山中学校 1年2組 教室
3	対象	1年2組（中学校1年生）40名
4	授業者	中山 莉麻
5	島名	グローバル・エシックス
6	単元名	飛べなかったハト
7	関連する教科・領域	道徳科
8	単元の目標・ねらい	自らの考えを根拠を持って他者に伝えると共に、他者の考えを受容した上で、自らの生命に対する考え方を捉える。
9	グローバル・スタディーズとしての目標・ねらい	<p>自らの考えの根拠にはどのような要素があるかを考え、他者との交流を通して自らの考えを客観的に捉え、深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル社会に生じる課題を理解することができる。 ・ 他者との考え方の違いを調整することができる。
10	単元の評価規準【教科・領域として】	「生命尊重」とはいかなる態度か、ということに対して自らが根拠を持って意見を持ち、悩みながらも選択をする過程で、それぞれの意見を尊重し、それぞれの視点について理解を深められている。
11	単元の評価規準【グローバル・スタディーズとして】	結論として出た意見の根底にあるそれぞれの要素について目を向け、同意見・反対意見の大きな枠では捉えきれないそれぞれの考えを共有し合うことを通して、自らの考えをより客観的に捉え、深められている。
12	単元計画	第1次 不治の病を持つ動物に対してどのような行動を選択するか、考える。（全1時間）
13	本時の目標	(単元の目標と重なるので割愛する)
14	本時の展開	<p>ペットとして生まれた病気のハトに対して、安楽死という措置を取るか取らないかを考えるという視点で進むものである。生徒一人一人が、自身の考えを持つと同時に、自らの価値観とはちがう考えに出会っても納得して受け入れることを目指す。</p> <p>授業は、ある少年が飼っていたハトという設定を通して考える内容であるため、客観的に内容を捉えながら出来事をたどっていく。しかし、主発問ではあくまでも「自分ならどちらの選択肢をとるか」という視点で考える。そのため、客観的に捉えた内容に対する感想、ではなく、自分自身の意見として考えを持つことができるだろう。</p> <p>また、生命を大切にしなければならないということは全員が概念的に把握していることだと考えられる。しかし、生命を尊重するというのは、「生命を生き長らえさせること」を指すのではないだろう。「生命」というものに対して自分自身が感じ、悩むこととして捉えさせ、改めて「生命尊重」の意識がしっかりと一人一人の中に芽生えることをねらいとする。また、安楽死を選ぶことの是非を問うのではなく、自身が根拠を持って意見を持ち、悩みながらも選択をする過程で、それぞれの意見を尊重し、それぞれの視点について理解を深めることを求め50分の活動を通して、生徒が固定概念として持つ「生命尊重」や「様々な意見を受容すること」について改めて考え、意見を持つことを目指す。道徳だから考える、のではなく気づいたら考え、意見を深めていた五十分となるよう、生徒の意見を主体としながら意見の分類や肯定の仕方にも留意しつつ、目標の達成をねらいたい。</p>

16 グローバル・スタ ディーズとしての 特徴	<p>教材の内容に入る前に、人類とペットが共存してきた歴史についておおまかに振り返った資料を提示する。身近な存在であるペットは人が守り育てるだけの存在ではなく、ともに等しく一つの命を抱えた存在であることや、もともとは互いが助け合うために共存していた存在であることを今一度振り返るためだ。また、その後現在の動物福祉の視点についても軽く紹介しておく。ヒトが生かすペット、としての生も現実としてはあるのだが、その上でどういったことに目を向けていけば良いのか、という視点にも目が向くようにするためだ。しかし、あくまでも歴史的な視点や現在の文化だけではない視点に目を向けさせることで、生徒間の議論がより深まり、思考が耕されることを求めるため、短時間で視覚的なデータを簡単に提示して、本教材の内容に入ることとする。</p> <p>また、最後に、自身の考えの振り返りも兼ねて、どうしてその意見を持ったのか分析を行う。たとえば、公平さと愛着とを天秤にかけたとき、自らはどのように取捨選択し決断したのかを考えることを通して、言葉でうまく表現できない自分の考え方を捉えさせたい。その際、自分一人ではうまく言葉に出来なかった感覚を表現したり、他者の感じ方も疑似体験することで、よりいっそう生命尊重に対する視点を増やしたりさせる。それぞれの感覚の違いを全体で共有するための発問ではないため、全体での交流はこの発問では行わないこととする。それを通して、安楽死の選択をする段階では反対意見を持っていると感じていた相手と、自身が大切にしたいと思ったものが似通っていたり、通ずるところがあったりすることにも気づかせられればと思う。</p>
17 授業者から一言	<p>今回の教材では「ハト」という鳥類の一種に焦点をあてて、話は進んでいく。生徒は、ほ乳類ほどの親しさを覚えず、かつ、ペットという大切な存在であるという視点から考えを深めることができるだろう。生徒の意見が、単なるその存在への好き嫌いに端を発するのではなく、内容を考え、悩んだ上で選択するために適した焦点が、鳥類ではないかと考える。他者の意見を聞いたり、自身の意見を言葉で表現したりする上で、「生命は大切だ」と単純に言葉として捉えるのではなく、生命に対してどのように考え、どのように行動していくのか、答えが出ずとも悩み、考えるきっかけとしてもふさわしい教材であろう。</p> <p>根拠を持って説明し、伝える力に重きを置いて教科授業を行っているため、生徒の中でもその感覚は少しずつ育ってきているものと考え。しかし、人間に対する尊厳死を認めるかどうか、という提案については中学校一年生の発達段階では他者の考えを受け入れることは厳しいであろう。また、爬虫類に対してはぬぐえない拒否感を持つ者もあり、その好き嫌いを乗り越えて意見を持つことも、まだ難しいだろう。更に、ほ乳類において安楽死をテーマに扱う場合、鳥類よりも関わりを持った事が多いと考えられるため、好き嫌いが根拠に出てしまいかねない。そういった点からも、今回は鳥類を扱うこととする。しかし、生徒の中には鳥類を飼育した経験がある者や、トラウマを持つ者があるかもしれない。そのあたりにも配慮をし、具体的な実体験や思い出が授業の中で大きく生徒の心境に関与することのないよう展開を進めていく。</p>

第1学年 道徳科学習指導案

指導者 中山 莉麻

1. 日時 平成29年7月12日（水曜）第1校時（8：40～9：30）
2. 学年・組 第1学年2組
3. 場所 第1学年2組 教室
4. 単元名 「飛べなかったハト」
5. 単元の目標
自身の考えを根拠を持って他者に伝えると共に、他者の考えを受容した上で、
自らの生命に対する考え方を捉える。

指導内容項目：(19)生命尊重

グローバルな視点における指導内容項目：(9)相互理解・寛容

6. 単元について

①教材観

本教材はペットとして生まれた病気のハトに対して、安楽死という措置を取るか取らないかを考えるという視点で進むものである。生徒一人一人が、自身の考えを持つと同時に、自らの価値観とはちがう考えに出会っても納得して受け入れることを目指す。

授業は、ある少年が飼っていたハトという設定を通して考える内容であるため、客観的に内容を捉えながら出来事をたどっていく。しかし、主発問ではあくまでも「自分ならどちらの選択肢をとるか」という視点で考える。そのため、客観的に捉えた内容に対する感想、ではなく、自分自身の意見として考えを持つことができるだろう。また、生命を大切にしなければならぬということは全員が概念的に把握していることだと考えられる。しかし、生命を尊重するというのは、「生命を生き長らえさせること」を指すのではないだろう。「生命」というものに対して自分自身が感じ、悩むこととして捉えさせ、改めて「生命尊重」の意識がしっかりと一人一人の中に芽生えることをねらいとする。また、安楽死を選ぶことの是非を問うのではなく、自身が根拠を持って意見を持ち、悩みながらも選択をする過程で、それぞれの意見を尊重し、それぞれの視点について理解を深めることを求める。

そこでまず、教材の内容に入る前に、人類とペットが共存してきた歴史についておおまかに振り返った資料を提示する。身近な存在であるペットは人が守り育てるだけの存在ではなく、ともに等しく一つの命を抱えた存在であることや、もともとは互いが助け合うために共存していた存在であることを今一度振り返るためだ。また、その後現在の動物福祉の視点についても軽く紹介をしておく。ヒトが生かすペット、としての生も現実としてはあるのだが、その上でどういったことに目を向けていけば良いのか、という視点にも目が向くようにするためだ。しかし、あくまでも歴史的な視点や現在の文化だけではない視点に目を向けさせることで、生徒間の議論がより深まり、思考が耕されることを求めるため、短時間で視覚的なデータを簡単に提示して、本教材の内容に入ることにとする。

今回の教材では、主人公の少年を小学校六年生と設定する。小学校六年生は、生徒達と近い年齢でありながらも年下の存在である。生徒たちは自らならどのような選択をするか、ということを考えた後で主人公の決断を知る。その際、主人公がどちらの選択肢をとったとしても、自分たちよりも年下で或主人公にとっては、十分に悩み苦しんで決断をしたのだ、という実感を抱かせるためだ。それにより、主人公の「決断」にのみ焦点を当てた批判的な視点で授業を捉えることを防ぐ。

また、今回の教材では「ハト」という鳥類の一種に焦点をあてて、話は進んでいく。生徒は、ほ乳類ほどの親しさを覚え、かつ、ペットという大切な存在であるという視点から考えを深めることができるだろう。生徒の意見が、単なるその存在への好き嫌いに端を発するのではなく、内容を考え、悩んだ上で選択するために適した焦点が、鳥類ではないかと考える。

他者の意見を聞いたり、自身の意見を言葉で表現したりする上で、「生命は大切だ」と単純に言葉として捉えるのではなく、生命に対してどのように考え、どのように行動していくのか、答えが出ずとも悩み、考えるきっかけとしてもふさわしい教材であろう。

②生徒観（今回の教材は一学年全クラスで取り扱うため、学年に対しての見取りを記す。）

本学年の生徒は、一人一人が自身の考えを持ち、それを発表することについて抵抗はあまり感じていない。意見を発表するように求めると、何人もの生徒が挙手をする。また、指導者が指名して意見を述べるように伝えた場合、きちんと自身の意見を伝えることができる。更に、教師の補助が必要な場合もあるが、その意見をどこから、どのように考えたのかという理由も述べるができる。しかし、教科によっては挙手をする生徒に限られている場合も少なくはない。そこで、道徳だからこそ、より多くの生徒からより様々な意見を引き出し、他者に伝える機会を設けたいと考えている。たとえば、理由をうまく説明できない、感覚的な表現など授業においては良しとされないものであっても、道徳であれば認めるべき発言もあるだろう。また、道徳であるからこそ、ぜひ取り入れていきたいものも多いだろう。そういった視点も提示し、伝えていきながら多くの生徒の意見を引き出し、言葉上だけでなく「生命尊重」および、「他者の意見を受容すること」の大切さを実感させたい。

また、他者の発表をきちんと聞き、それに対する自身の考えを深めることもできる生徒が多数在籍している。お互いの意見への反論をし合うのではなく、一人ひとりの考え方に触れることを通して個人の価値観や感覚の広がりを求める。そのため、個人の発表を繰り返す形で意見を共有していくが、授業やと発表者のやりとりを、多数の生徒が聞く、という形ではなく、発表者と三十九人の聞き手との相互間で意見を交流するという意識を持って授業に臨ませたい。そこで、意見発表の時はコの字型に机を配置し、お互いの顔を見合って意見の共有ができるようにする。

根拠を持って説明し、伝える力に重きを置いて教科授業を行っているため、生徒の中でもその感覚は少しずつ育ってきているものとする。しかし、人間に対する尊厳死を認めるかどうか、という提案については中学校一年生の発達段階では他者の考えを受け入れることは厳しいであろう。また、爬虫類に対してはめぐえない拒否感を持つ者もあり、その好き嫌いを乗り越えて意見を持つことも、まだ難しいだろう。更に、ほ乳類において安楽死をテーマに扱う場合、鳥類よりも関わりを持った事が多いと考えられるため、好き嫌いが根拠に出てしまいかねない。そういった点からも、今回は鳥類を扱うこととする。しかし、生徒の中には鳥類を飼育した経験がある者や、トラウマを持つ者があるかもしれない。そのあたりにも配慮をし、具体的な実体験や思い出が授業の中で大きく生徒の心境に関与することのないよう展開を進めていく。

③指導観

今回は資料の本文をパワーポイントで表示して生徒に提示する。先を読み急いだり、斜め読みをして大体の概略を把握するのではなく、全員が同じ内容にきちんと目を通してほしいからだ。また、パワーポイントにすることで全員の顔が物理的にも上がり、集中できていない生徒やあまり興味を抱けていない生徒にこちらが目を向けやすくなるという利点もある。一字一句を共有することで、共通認識をはかりたいため、パワーポイントで提示しながら教員が音読をしていく。その際、生徒の表情を見ながら、補足を入れる必要がある場合は少しかみ砕いて説明をする場面も出てくるだろう。また、長さもある文章なので、途中で小さな問いかけを行う。その問いかけにより、読み疲れてきた生徒ももう一度文章の内容に興味を持てるだろう。そこでの生徒の意見を広げたり、理由を聞いたりすることはしない。全員の集中をもう一度文章の内容に向けたところで、後半の内容に入る。実際に主発問を行い、生徒に意見を持たせる場面では、それまでパワーポイントで紹介した内容を紙面にも記載して配布する。パワーポイントで一度見ただけでは細部まで理解しきれず、もう一度読み直したい、と思う生徒や、文面をたどることでしっかりと自身の意見の根拠を持つことができる生徒がいると考えるからだ。安楽死を選ぶかどうか、という問に対しては二択で選ばせるが、実際の発表に際しては数直線を用いて自身の意見の偏り

を目で見て分かるようにさせる。それにより、同じ選択肢を選んだ者の中でも、その選択肢をどう捉えているかが理解しやすい。また、どちらの選択肢を選ぶ事も難しいと感じていながら、何とか一つの結果を出した生徒が自身の意見を言う際には、数直線で自分の立場を示しておくことで、その悩みを具体的に伝えやすくなるだろう。また、命は大切である、という概念は共通して持っているとしても、その大切にするためにとる「方法」や「考え方」は数多くあることを視覚から訴えるためである。それぞれの考え方の是非を問うことはしない。ただし、はじめから数直線上で立場を示すことを伝えたと、分岐点付近（原点）に生徒が集中することも考えられるため、二択で意見を選び、理由を書かせた後で、数直線のことは伝えることとする。

全員が名前カードを白板に貼り終わったら、電気をつけて意見を聞いていく。その際、分岐点付近の生徒をまず十名ほど指名し、意見を聞く。生徒の意見はかいつまんで白板にも書いていく。その後、A100とB100に近い生徒の意見を交互に聞いていく。その際は、挙手をさせる。分岐点付近の生徒の方が、100に近い生徒に比べ、自身の意見を言葉で表すことに抵抗を感じていたり、自分の中でも意見にまだ揺れがある生徒が多いと考えられるため、指名により意見の表出を促す。逆に、数直線の両端に近い生徒は、具体的な理由を明確に持っていたり、自分の意見に自信があることが考えられるため、挙手により発言を求める。また、数直線の両端に近い生徒の意見は、先述の理由より明確な根拠があると考えられるため、どちらを選ぶか悩んでいる生徒の心を揺さぶるためにも、交互に意見を聞いていく。その際、反対側の選択肢を選んだ生徒の意見への反論を行うのではなく、あくまで自分はなぜそう考えたのか、ということを表示させることに留意する。

様々な意見を聞いたあと、白板上の数直線及び生徒の意見を全て消し、名前カードも外す。その後、再度電気を消してパワーポイントを提示し、話の後半を音読していく。主人公が選んだ選択肢に是非を問うのではなく、話の全体を通してハトの視点や母の視点など様々な視点から考えを深めることをねらう。最後のスライドまで進んだら、ワークシート2を配布する。

最後に、自身の考えの振り返りも兼ねて、どうしてその意見を持ったのか分析を行う。たとえば、公平さと愛着とを天秤にかけたとき、自らはどのように取捨選択し決断したのかを考えることを通して、言葉でうまく表現できない自分の考え方を捉えさせたい。また、その際うまく考えがまとまらなかったり表現できないこともあるかと思うので、少集団で意見交流を行う。大勢の前では自信が持てず発表しづらいような考えも、小集団の中であればたいなく発言できると考えるからだ。その際、自分一人ではうまく言葉に出来なかった感覚を表現したり、他者の感じ方も疑似体験することで、よりいっそう生命尊重に対する視点を増やしたりさせる。それぞれの感覚の違いを全体で共有するための発問ではないため、全体での交流はこの発問では行わないこととする。それを通して、アルファベットの選択をする段階では反対意見を持っていると感じていた相手と、自身が大切にしたいと思ったものが似通っていたり、通ずるところがあったりすることにも気づかせられればと思う。

最後に、この五十分間を振り返っての気づきや考えを個々で言葉にさせる。ここでは、他者からどのように考えられるか、どう受け止められるか、ということよりも自らの「生命」に対する考え方や、選択肢を選ぶ時点と現段階での感じ方の違いなどを自己省察させることをねらうため、個々で取り組み、言葉にすることを求める。

五十分の活動を通して、生徒が固定概念として持つ「生命尊重」や「様々な意見を受容すること」について改めて考え、意見を持つことを目指す。道徳だから考える、のではなく気づいたら考え、意見を深めていた五十分となるよう、生徒の意見を主体としながら意見の分類や肯定の仕方にも留意しつつ、目標の達成をねらいたい。

7. 本時の展開

①評価の観点と方法

- ・ワークシートに理由と共に意見をワークシートに記入しているか。
- ・他者に自分の意見を伝えようとしているか。
- ・他者の意見を聞き、気づきのあったものをワークシートにメモしているか。
- ・本時の振り返り（感じたことや考えたこと）をワークシートに記入しているか。

②具体的な展開

区分	学習活動と内容	指導上の留意点・支援・評価	準備物
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットについて導入を行う。 ・「ペットを飼った事がある人はどれくらいいますか？」 	<ul style="list-style-type: none"> ・半数程度が挙手をするだろう。ここでは飼っていたペットの種類などは聞かない。 	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトとペットの歴史について簡単に紹介する。 ・「ペットを飼っていて悩んだことはありませんか？」 ・ヒトとペットの関わり方の変遷をふまえて、動物福祉の考え方を簡単に紹介する。 ・「ペットという、どのような動物を思い浮かべますか？」 ・「今日はある少年のペットであったハトのお話をみんなと見ていきたいと思います。」 ・パワーポイントで本文を映しながら、資料本文を教師が音読する。 ・6枚目のスライドまで来たら、医師の言葉を考えさせる。 ・「このとき、獣医さんは何と言ったと思いますか？」 ・数名の生徒を指名し、答えさせる。 ・続きのスライドを映し、音読を続ける。 ・「みんながこの少年なら、どちらを選びますか？ ただし、必ずAかBのどちらかを選んでください。 そして、選んだ理由も書いて下さい。」 ・11枚目のスライドまでいったらワークシート1を配布し、自分ならどう選択するかを考えさせる。 ・生徒の手が止まってきたところに、名前カードも配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットに対しての視点を広げることをねらいとして紹介するので細かなことには触れない。 ・生徒の反応を聞きながら、スライドを進める。 ・動物をかわいがるだけことが福祉的な視点ではないという視点を与えておくための紹介資料である。 ・生徒の反応を聞きながら、スライドを進める。 ・電気を消す ・パワーポイントを見ながら本文を聞く。 ・「とても痛い思いをさせるけど、薬を使って無理に治すんだよ。」「薬を使って安楽死させてあげるんだよ。」といった内容が出ると予想される。 ・特にここで意見を広げたり理由を聞いたりはしない。 ・ワークシート1に自分の考えを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・ワークシート1 ・名前カード

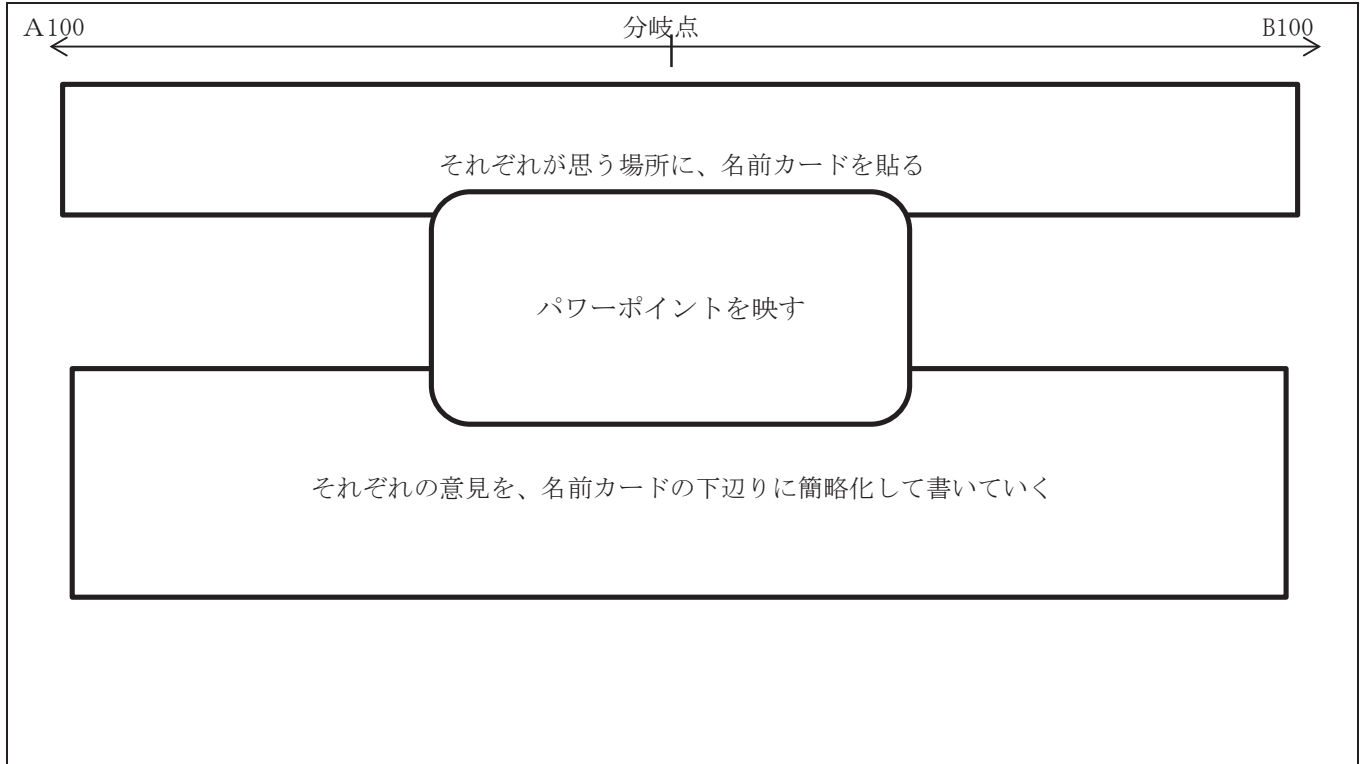
	<ul style="list-style-type: none"> ・五分待ち、その後の活動にうつる。 ・「それでは、前の白板に名前カードを貼りにきて下さい。ただし、今回2つの選択肢から選んでもらいましたので、自分の考えがより分かるようにしたいと思います。絶対にAを選ぶ人ならA100のところに、とても悩んでなかなか決められないけれど、どうしても二択から選ぶならBかな、という人はB10のところに、このようにして名前を貼ってください。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線を書く。 ・名前カードを前の白板に貼りにくる。 	
<p>展開 40分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が名前カードを貼れたら、意見を聞いていく。 ・このとき、まず真ん中の分岐点に近いところから10人ほど指名し、意見を聞く。発表した理由を簡単にまとめて、白板の下の方に書いていく。 ・その後、AもしくはBの100に近い意見を持つとした生徒を交互に意見を聞いていく。このときは、挙手を優先として発表させる。 ・その後、パワーポイントを再度映し、資料の後半を音読していく。 ・「自分がどんなことを考えて、先ほどの選択をしたか、分析してみましょう。いくつもの要素の中で、今回最優先したものは？今回は、あきらめたものは？どういったものがありましたか。」 ・ワークシート2を配布し、記入させる。 ・個人でワークシート2に取り組んだ後、班の形になり、班員でワークシート2に記入した内容をふまえて意見を交流する。 ・班での意見交流が終われば、班の形を解消させ、机を前向きにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コの字型に机を配置させる。 ・指名により起立して意見を発表する。 ・聞いている生徒は、意見をワークシート1にメモしていく。 ・それぞれの意見を理由と共に述べるが、他者への反論などはさせないようにする。 ・誰が何を言ったか、に焦点が当たらないようにするため、パワーポイントを映す時に白板の名前カードは動かし、意見は消す。 ・再度、電気も消す。 	
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート2を配布し、記入させる。 ・個人でワークシート2に取り組んだ後、班の形になり、班員でワークシート2に記入した内容をふまえて意見を交流する。 ・班での意見交流が終われば、班の形を解消させ、机を前向きにする。 ・最後に本時の活動を通して考えたことや感じたことをワークシート2に記入させる。 ・ワークシート2を回収して、号令をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A、Bを選んだのはなぜか、分析をさせる。どのように書けばよいかまとめにくい生徒には、「平等、公平」「ハトの思い」「飼い主としての愛情」などいくつかの具体例を例示する。 ・自らの「生命」に対する考え方や、選択肢を選ぶ時点と現段階での感じ方の違いなどを自己省察させることをねらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート2

③準備物

教師：ワークシート１、ワークシート２、パワーポイント、名前カード

生徒：筆記用具

８．板書計画



飛べなかったハト

1年 組

番 氏名 (

)

ハトのヒナが卵からかえって今日で三週間がたった。2羽いるうちの1羽は、三日前から巣の外の出ている。朝食の餌をまくと他のハトに、追いかけられながらもちょこちょこ走り回って餌を食べている。もう1羽は親がエサを運んで行くとピーピー騒いでくちばしをのばしているのが見える。おかしいなあ。何で外に出てこないだろう。もうとっくに出てきても良い頃なのに。

10日ほど前に巣の中に手を突っ込んで親のハトにつつかれながらも2羽を取り出して、手の上に載せてよく観察した。まだ黄色い産毛が残っているが大きさは十分に育っている。ばたばた暴れて元気だ。でも片方の足が曲がらないで伸びているこの足のせいで巣から出なかったんだ。今日は春休みの最後の日なので、ハトを近所の獣医さんの所につれていくことにした。

僕は母からお金をもらって、自転車の後ろにハトを入れたかごを乗せて獣医さんへ向かった。途中でハトは、元気よくピーピー鳴きながら暴れていた。

獣医さんでは少し待たされた。「どれ、見せてごらん。うむ…難しいな。…だめかな。」先生は、ハトを手にとってしばらく診てからまた、羽を広げてみながら、「やっぱりだめだな。」と大きくため息をつきながら言った。僕は、その意味がよく分からなかった。

「添え木でもするんですか？それとも、薬を飲ませるんですか？」と、聞いた。すると先生は、ハトを僕に手渡してからしばらく考え込んでからおっしゃった。

「このハトは骨の病気だね。この足は、手術をしても治らないよ。それに翼の骨も曲がっている。飛べるようにはならない。かわいそうだけれども、早く楽にしてあげる方がこのハトのためだよ。」

「楽にするってどうするんですか？」

「A」

「えっ、先生は、もっと大きなけがをしたハトを何度も助けてくれたのに。」

「今までのけがとは違うんだ。ハトは気の荒い鳥だからいつもつつつかれていじめられる。もし仮に、人間が世話をしてこのまま大きくなったとしてもかわいそうなだけだ。」

「でも僕がかわいがってやる。だから助けて下さい。」

「よく聞きなさい。自然界は厳しいんだ。たとえば、母親の乳を飲む力のない子どもは力尽きて死んでいく。渡り鳥では、親と一緒にわたれない小鳥も力尽きて死んでしまう。それが自然の摂理なんだ。本当のやさしさは、ただ生き長らえさせることじゃないんだ。このハトの身になって考えることが大切なんだ。」

その間にも手の中で暴れている暖かいハトの体温が伝わってくる。僕は、ハトをかごに入れ、自転車に乗せて帰った。どうしてこんなにかわいいハトを殺さなくてはいけないんだ。

家に着くと、ハトをかごから出してテーブルに置いた。ぼくは殺さなくてはいけないんだと何度も自分に言い聞かせたが、どうすれば良いのかわからなかった。ただ涙が止めどなくあふれてきた。僕は、母のいる二階へ泣きながら駆け上がって行った。

「お母さん、お母さん。」

「どうしたの。」

母がびっくりしてそう聞いた。僕は獣医さんから伝えられたことを話した。

「ハト、だめなんだ。治らないんだって。楽にしてあげた方がいいって、先生が言うんだ。」

「分かったわ、話しは分かったから、もう泣かないで。」

「B」

1.

選んだアルファベット【 】

そのアルファベットを選んだ理由を書こう

⇒意見交流をしよう

Aを選んだ人の意見	Bを選んだ人の意見

このハトは、一体どうなるのだろうか。

話の続きを見てみよう。



飛べなかったハト

1年組 番 氏名 ()

「そんなことしなくたって良いじゃない。命つきるときまで、飼ってあげましょうよ、ね？」

僕は、その言葉を待っていたのかもしれない。母は僕の手を取って目をみつめながら言った。

「獣医さんの言うことも分かるけど、お母さんはこう思うの。生き物を飼うってことは、最後まで面倒を見てあげることだと思うわ。だからこのハトもかわいがってあげましょうよ。」

その言葉で僕は決心がついた。僕は大きくうなずいた。そして、テーブルの上のハトを巣に戻した。

しばらくの間、親のハトが面倒を見ていた。そのうちに巣から出てきた。やっぱりちゃんと歩けない。ほかのハトからは、獣医さんが言ったように、つつつかれていじめられる。ぼくはかごに移してそのハト一匹だけを別に飼うことにした。でも、これでよかったんだろうか。いつもその疑問を感じながら飼っていた。

一緒に生まれたもう1羽のハトはほかのハトと一緒に大空を飛べるようになったが、このハトは羽をばたばたさせるだけで飛ぶことはできない。でも僕は、毎日水をとりかえて、ハトの好物のエサをやってかわいがっていた。

ハトを一匹だけ別のかごで飼うようになってから一ヶ月ぐらいたった日曜日の朝、いつものようにエサをやるうとかごをあけた。すると、ハトが動かない。手に取ってみると、まだ少し暖かかった。昨日までは元気だったのに。

先天的な病気を持った動物は、元気でも急に死んでしまうことがあると聞いていた。獣医さんの本当のやさしさってというのは、ただ生き長らえさせることじゃないんだ。という言葉思い出した。

かわいそうだと思ったが、泣けなかった。

2. なぜ、その選択をしたのだろうか。自らの意見を分析してみよう。

①自分が選択したアルファベット…【 】(約 %の位置) ②その選択をする上で考えたことや要素など

3.

この時間に学んだ内容に
↓印をつけよう↓

A 自分自身について
<input type="checkbox"/> 自主・自律・自由と責任
<input type="checkbox"/> 節度・節制
<input type="checkbox"/> 向上心・個性を伸ばす
<input type="checkbox"/> 希望・勇気・強い意志
B 人との関わりについて
<input type="checkbox"/> 思いやり・感謝
<input type="checkbox"/> 礼儀
<input type="checkbox"/> 友情・信頼
<input type="checkbox"/> 相互理解・広い心
C 集団や社会との関わりについて
<input type="checkbox"/> 勤労・正義・法を守る・社会貢献
<input type="checkbox"/> 家庭・学校・集団生活の充実
<input type="checkbox"/> 日本・郷土の伝統・文化・愛する態度
<input type="checkbox"/> 国際理解・国際貢献
D 生命や自然との関わりについて
<input type="checkbox"/> 命の尊さ
<input type="checkbox"/> 自然愛護
<input type="checkbox"/> 感動をする心・尊敬する心
<input type="checkbox"/> よりよく生きる喜び

※参考資料1 グローバルの視点を取り入れる前の指導展開

区分	指導上の留意点・支援・評価 (教師の活動)	学習活動と内容、生徒の反応、留意点など	準備物・資料等
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットについて質問をする。 ・「ペットを飼った事がある人はどれくらいいますか？」 ・「ペットを飼ったことがないけど、飼いたいなあと思っている人はどれくらいいますか？」 ・「これまで、鳥をペットに飼った事がある人はいますか？」 ・「どんな鳥を飼いましたか？」 ・今日はある少年のペットであったハトのお話をみんなと見ていきたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10人程度が挙手をする。 ・半数程度が挙手をする。 ・数人が挙手をする。 ・「インコ」「うずら」「オウム」などが出ると予想される。 	・パワーポイント
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントで本文を映しながら、資料本文を教師が音読する。 ・6枚目のスライドまで来たら、医師の言葉を考えさせる。 ・「このとき、獣医さんは何と言ったと思いますか？」 ・数名の生徒を指名し、答えさせる。 ・続きのスライドを映し、音読を続ける。 ・「みんながこの少年なら、どちらを選びますか？ ただし、必ずAかBのどちらかを選んでください。 そして、選んだ理由も書いて下さい。」 ・11枚目のスライドまでいったらワークシート1を配布し、自分ならどう選択するかを考えさせる。 ・生徒の手が止まってきたところに、名前カードも配布する。 ・五分待ち、その後の活動にうつる。 ・「それでは、前の白板に名前カードを貼りにきて下さい。 ただし、今回2つの選択肢から選んでもらいましたので、自分の考えがより分かるようにしたいと思います。 絶対にAを選ぶ人ならA100のところ、 とても悩んでなかなか決められないけれど、どうしても二択から選ぶならBかな、という人はB10のところ、 というようにして名前を貼ってください。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気を消す ・パワーポイントを見ながら本文を聞く。 ・「とても痛い思いをさせるけど、薬を使って無理に治すんだよ。」「薬を使って安楽死させてあげるんだよ。」 といった内容が出ると予想される。 ・特にここで意見を広げたり理由を聞いたりはしない。 ・ワークシート1に自分の考えを記入する。 ・数直線を書く。 ・名前カードを前の白板に貼りにくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1 ・名前カード

展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が名前カードを貼れたら、意見を聞いていく。 ・このとき、まず真ん中の分岐点に近いところから10人ほど指名し、意見を聞く。発表した理由を簡単にまとめて、白板の下の方に書いていく。 ・その後、AもしくはBの100に近い意見を持つとした生徒を交互に意見を聞いていく。このときは、挙手を優先として発表させる。 ・その後、パワーポイントを再度映し、資料の後半を音読していく。 ・最後のスライドまでいったら、「どうして僕が泣けなかった」のかを、生徒に考えさせる。 ・ワークシート2を配布し、記入させる。 ・班の形になり、班員でワークシート2に記入した内容を交流する。 ・班での意見交流が終われば、班の形を解消させ、机を前向きにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指名により起立して意見を発表する。 ・聞いている生徒は、意見をワークシート1にメモしていく。 ・それぞれの意見を理由と共に述べるが、他者への反論などはしないこととする。 ・誰が何を言ったか、に焦点が当たらないようにするため、パワーポイントを映す時に白板の名前カードは外し、意見は消す。 ・再度、電気も消す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート2
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に本時の活動を通して考えたことや感じたことをワークシート2に記入させる。 ・ワークシート2を回収して、号令をかける。 		

※この指導展開についての補足

様々な意見を聞いたあと、白板上の数直線及び生徒の意見を全て消し、名前カードも外す。その後、再度電気を消してパワーポイントを提示し、話の後半を音読していく。主人公が選んだ選択肢に是非を問うのではなく、話の全体を通してハトの視点や母の視点など様々な視点から考えを深めることをねらう。最後のスライドまで進んだら、ワークシート2を配布する。そこでは、どうして僕が泣けなかったのかについて問う。ここでは、意見を持ってない生徒やうまく意見を言葉にできない生徒もいるだろう。心情把握のための発問ではなく、ハトに対して安楽死という措置をとらない決断をしたこと、しばらくは平穏な日々が続いたこと、ハトが急死したこと、を通して主人公の心の揺れを生徒も疑似体験し、先ほどの選択肢についてもう一度考えることをねらう。

十分に二つ目の発問に対して考える時間を用意できないため、班の形になり、四人でどのように考えたかを交流する。そこで、自分一人ではうまく言葉に出来なかった感覚を表現したり、他者の感じ方も疑似体験することで、よりいっそう生命尊重に対する視点を増やしたりさせる。それぞれの感覚の違いを全体で共有するための発問ではないため、全体での交流はこの発問では行わないこととする。

※参考資料2 グローバルの視点を別の方法で取り入れようとした指導展開

区分	指導上の留意点・支援・評価 (教師の活動)	学習活動と内容、生徒の反応、留意点など	準備物・資料等
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットについて質問をする。 ・「ペットを飼った事がある人はどれくらいいますか？」 ・「ペットを飼ったことがないけど、飼いたいなあと思っている人はどれくらいいますか？」 ・「これまで、鳥をペットに飼った事がある人はいますか？」 ・「どんな鳥を飼いましたか？」 <p>・今日はある少年のペットであったハトのお話をみんなと見ていきたいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10人程度が挙手をする。 ・半数程度が挙手をする。 <p>・数人が挙手をする。</p> <p>・「インコ」「うずら」「オウム」などが出る と予想される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントで本文を映しながら、資料本文を教師が音読する。 ・6枚目のスライドまで来たら、医師の言葉を考えさせる。 ・「このとき、獣医さんは何と言ったと思いますか？」 ・数名の生徒を指名し、答えさせる。 <p>・続きのスライドを映し、音読を続ける。</p> <p>・「みんながこの少年なら、どちらを選びますか？ ただし、必ずAかBのどちらかを選んでください。 そして、選んだ理由も書いて下さい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11枚目のスライドまでいったらワークシート1を配布し、自分ならどう選択するかを考えさせる。 ・生徒の手が止まってきたころに、名前カードも配布する。 <p>・五分待ち、その後の活動にうつる。</p> <p>・「それでは、前の白板に名前カードを貼りにきて下さい。 ただし、今回2つの選択肢から選んでもらいましたので、自分の考えがより分かるようにしたいと思います。 絶対にAを選ぶ人ならA100のところ、 とても悩んでなかなか決められないけれど、どうしても二択から選ぶならBかな、という人はB10のところ、 というようにして名前を貼ってください。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電気を消す ・パワーポイントを見ながら本文を聞く。 <p>・「とても痛い思いをさせるけど、薬を使って無理に治すんだよ。」「薬を使って安楽死させてあげるんだよ。」 といった内容が出ると予想される。</p> <p>・特にここで意見を広げたり理由を聞いたりはしない。</p> <p>・ワークシート1に自分の考えを記入する。</p> <p>・数直線を書く。</p> <p>・名前カードを前の白板に貼りにくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1 ・名前カード

<p>展開 40 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が名前カードを貼れたら、意見を聞いていく。 ・このとき、まず真ん中の分岐点に近いところから 10 人ほど指名し、意見を聞く。発表した理由を簡単にまとめて、白板の下の方に書いていく。 ・その後、AもしくはBの 100 に近い意見を持つとした生徒を交互に意見を聞いていく。このときは、挙手を優先として発表させる。 ・その後、パワーポイントを再度映し、資料の後半を音読していく。 ・最後のスライドまでいったら、「どうして僕が泣けなかった」のかを、生徒に考えさせる。 ・ワークシート 2 を配布し、記入させる。 ・個人でワークシート 2 に取り組んだ後、班の形になり、班員でワークシート 2 に記入した内容をふまえて意見を交流する。 ・班での意見交流が終われば、班の形を解消させ、机を前向きにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コの字型に机を配置させる。 ・指名により起立して意見を発表する。 ・聞いている生徒は、意見をワークシート 1 にメモしていく。 ・それぞれの意見を理由と共に述べるが、他者への反論などはしないこととする。 ・誰が何を言ったか、に焦点が当たらないようにするため、パワーポイントを映す時に白板の名前カードは動かし、意見は消す。 ・再度、電気も消す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 2
<p>まとめ 5 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に本時の活動を通して考えたことや感じたことをワークシート 2 に記入させる。 ・ワークシート 2 を回収して、号令をかける。 		